



@幸せな贈り物

まさに その人を さがしています！

ダビデとゴリヤテ、そしてソドムとゴモラを思う…今日の国の危機状況を見れば、ダビデとゴリヤテを思い、ソドムとゴモラを思い出すのは「戦争の勝敗は主にある」という聖書の証言のためです。

ダビデが生きていた時期、ペリシテという強大国の軍隊がイスラエルに攻め込んできて、背が3メートルを超える将軍ゴリヤテは主なる神様を侮辱しながら私と戦う者がいるなら出て来いと威嚇しました。このとき、荒野で羊を飼っていた羊飼いダビデが石5つと石投げを持ってゴリヤテの前に立ちました。そして、彼はこのように宣言しました。

ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。きょう、主はおまえを私の手に渡される。私はおまえを打って、おまえの頭を胴体から離し、きょう、ペリシテ人の陣営のしかばねを、空の鳥、地の獣に与える。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るであろう。この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。」(1サムエル 17:45~47)

そして、ソドムとゴモラの滅亡を知っていますか。多くの人々はソドムとゴモラは、墮落したために滅亡したと思うでしょうが、神様はソドムとゴモラを生かす義人がいないためだとおっしゃいました。神様とアブラハムの対話の中で神様の基準が何なのかを確認することができます。

彼はまた言った。「主よ。どうかお怒りにならないで、今一度だけ私に言わせてください。もしやそこに十人見つかるかもしれません。」すると主は仰せられた。「滅ぼすまい。その十人のために。」主はアブラハムと語り終えられると、去って行かれた。アブラハムは自分の家へ帰って行った。(創世記 18:32~33) しかし、ソドムとゴモラは、結局、神様が探す義人 10 人がいなかったので滅ぼされてしまいました。

今まで地球の歴史には 16,000 回の大小の戦争が起きました。今でもその戦争は続いていて、これからもあちこちに飢饉と戦争が起きることを聖書は預言しています。

宗教の葛藤と法王権を拡大しようとする欲で 3 世紀に渡って起きた十字軍戦争 1096~1291、イギリスとフランスの間に長い間、積もっていた憎しみで 100 年間も持続した 100 年戦争 1337~1453、ドイツを舞台にプロテスタントとカトリックの間の葛藤が表われた 30 年戦争 1618~1648、帝国主義の植民地争奪戦と国家間の産業の葛藤と対立で 900 万人が犠牲になった 1 次世界大戦 1914~1918、世界経済恐慌にともなう民族主義の葛藤と世界制覇の貪欲によって 6,200 万人が犠牲になった 2 次世界大戦 1939~1945、ユダヤ民族に対する憎しみと嫌悪で 3 段階にわたって 600 万人を虐殺したヒトラーの人種主義、数千万人が犠牲になったスターリンの粛清と鉄拳政治、強大国の貪欲の中で民主主義と共産主義の理念対立と葛藤がもたらした朝鮮戦争、そして、今の朝鮮半島の南北の間の危機…

絶え間ない葛藤と争いの終わりは常に戦争と死でした。

しかし、神様の願いは人間の不幸と苦しみではありません。

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。(エレミヤ 29:11)

エルサレムのちまたを歩き巡り、さあ、見て知るがよい。その広場で捜して、だれか公義を行ない、真実を求める者を見つけたら、わたしはエルサレムを赦そう。(エレミヤ 5:1)

今日も神様は、まさにこの人を探しておられます。そして、その場に今みなさんを招いておられます。主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——主の御告げ——天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。(イザヤ 55:6~9)

まさにその人、幸せで満足している人が戦うことはないでしょう。何か埋めることができない隠している葛藤と貪欲が人間を戦うようにさせるのです。

神様のみことばである聖書には、人間が創造される前からあった暗やみとむなしさと混とんの実体、サタン(悪魔)という存在についてたしかに明らかにしています。このサタンの策略にだまされた人間は、神様を離れて肉の情欲と目の欲に奴隷になったことを創世記 3 章の事件で明らかにしています。これを聖書は人間の原罪だと語っています。この事件以後に、人間はいくら努力をしてもだめになって、むしろ努力するだけに問題がくるようになりました。それで、教育と科学が発展して、所得の水準が高まるのにもかかわらず、犯罪と子どもの墮落、精神問題はますますもっと深刻になっていくのです。

それで、私たちにはこの問題を解決して下さる方が必要です。人間の貪欲と争いと滅亡がサタンの影響ならば、サタンの権威に勝たれた方だけが救い主になることができます。

人間が絶対に解決できないので、サタンの問題、罪と運命の問題、地獄の問題、神様を離れた問題を解決するために、この地に来られて十字架で死に、復活されることによってまことの救い主(キリスト)であることを証明された方がおられます。その方がまさにイエス様です。このイエス様をキリストと信じて私の心に主人として受け入れるとき、神様の心を動かす人となる身分、つまり神様の子どもとの身分と権威を得るようになります。このときはじめて、人間の貪欲と欲望から解放されて、お互いが共存する平和な人生を生きていくようになるのです。人間の葛藤と争いを助長して戦争を起こし、ひとつの国を不幸にさせる暗やみの勢力を打ち砕かないのなら、まことの平和はありえません。今はともに国と民族のためにイエス・キリストの御名で祈るときです。

「主は悪者から遠ざかり、正しい者の祈りを聞かれる。…
義人の祈りは働く、大きな力があります。」

箴言 15:29、ヤコブ 5:16

私のために 他人の罪をゆるしなさい!

イエス様が教えて下さった主の祈りの五つ目の祈りは「われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」です。

ゆるしの反対語は憎しみです。憎しみが傷として残って挫折するようになれば、麻薬、お酒、ギャンブルに陥るようになります。その結果、深刻な犯罪者になったりもします。そして、この憎しみをずっと持っていれば、肉体的にも不治の病になります。

マタイ 18 章 21~35 節を見ればペテロがイエス様に尋ねました。「兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」そうしたらイエス様が「七度を七十倍するまで。490 回でも赦しなさい。」この話はみな赦しなさいということです。イエス様がそれに対する説明をされました。ある人が一生返しても返すことのできない大きい借金をするようになりました。ところが、彼の主人がかわいそうな事情を分かって、「良い。それでは、あなたの借金をないことにしてあげよう。いまから熱心に暮らさなさい!」と言いました。一生返しても返せない借金をないことにしてもらったから、どれくらいうれしいでしょうか。ところで、この人が道を行くときに、自分にとっても少しのお金を借りた人に会いました。それではどのようにしなければなりませんか。「私が一生返せない借金をないことにしてもらったので、心配するな。あなたのもないことにしてあげよう!」そうでなければならぬのではないのでしょうか。ところで「おまえ、前に貸してやったものなのに、まだ返さないのか」と言って監獄に入れました。その知らせを聞いた主人が「彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』と主人が怒って、その借金をすべて返すように彼を監獄に入れました。」それとともに「あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」と言われました。

はたして、赦すことは可能なのでしょうか。神様の愛と祝福を分かれば憎しみを越えて赦すことができます。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(1ヨハネ4:9~10)

そして、福音の力が何か分かれば赦せます。福音は人間が解決できない根本的な問題、人間が生きていきながら体験しなければならないすべての問題を解決された人生の解答です。罪と呪い、運命と地獄の権威、サタンの手から抜け出す道が福音、すなわちイエス・キリストです。「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ8:1~2)そして赦しは、未来にまことの答えを受けるとも重要な道になります。「私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださいから。」

(イザヤ 55:7)

神様の子どもになる

受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



ヘンリーの 人生キャンプ

ヘンリーHenryは56歳の男性で、イギリスのアイランド出身で、現在はオーストラリアで中国人の奥さんとティーンエイジャーである娘と暮らしている有名な人だ。彼は自分の人生経験を本で構成したがそれは< Broken & Restored >だ。この本で、ヘンリーは過ぎた自分のぞっとする麻薬の苦しみと回復の内容を明らかにしているのだが、その経験が多くの麻薬服用者にいやしの助けをあたえる本としてベストセラーに上がっている。

ヘンリーは18歳のとき、イギリス、ロンドンのナイトクラブで仕事をしながら初めて麻薬に接した。麻薬(narcotics)は無感覚を意味することで、睡眠および混迷を引き起こして疼痛を緩和させる物質として知られているが、治療目的で使われる他に快楽の一つの手段で誤用されているのだ。ヘンリーは40歳まで麻薬を常習的に使ったが、そのうち10年はヘロインを血管に打った。ヘロインは、臭いがなくて白色、軟褐色、暗褐色の粉末形態で現れるのだが、緊張、怒り、恐怖を抑制して、幸福感と陶酔感をあたえる中枢神経抑制剤の一種だ。モルヒネを原料にしているだけあって、薬理作用はモルヒネと似ているが、中毒性はモルヒネの何と10倍に達する。アメリカを経てオーストラリアのキャンベラに到着した彼は、そちらで麻薬ディーラーまでして、警察に捕まり、7年の刑の宣告を受けて服役するようになった。彼自身を回復して更生できる重要な時刻表がきたのに、ヘンリーは監獄でも麻薬を継続した。結局、肝炎BとCが激しくなって、医師からもう6ヶ月も生きられないという診断を受けて減刑され、出所した。結局、どんな薬も効かない絶対絶命の状態では道に倒れていたが、ある老人が彼を教会に連れていった。教会でヘンリーは祈ってもらったのだが、そこで、あつという間に自分も信じられない驚くべき事件が

起きた。苦しみでぎっしり埋まっていた自分のからだと心が綺麗にすがすがしくなったのだ。科学でも常識的にも、理解できない現象だったが、とにかく麻薬から自由になったのだ。

その後、彼は彼を生かした福音を確認しに多くの教会を巡回した。そうして、その経験をあかしの本で書いたところ、オーストラリアと全世界に広がっていき、監獄ごとに数百冊ずつ注文する著名人になり、監獄と教会、団体、放送局で彼を迎えて話を聞くことを願っている。彼を通して数百人の人がヘンリーのように自由を得た。しかし、罪悪から救われた自分は生きたが、長い間、自分をおさえていた霊的な現象を避けられなかった。それは他の人が自分を拒否する傷が治らなかったのだった。そうするうちに、人々を生かすことはできても、弟子を作れなかった。

そのような彼に、ある日、事実に福音が伝えられた。人生は最高の存在として創造されたが、神様を拒否したので、神様と分離して苦しみの中に入るようになり、罪を選択して暗やみに縛られ、サタンの奴隷になっていたので麻薬を通して幸せになろうとした事実を発見した。

それから、そのすべての問題の解決者がイエス・キリストだから、その中で自由を味わいなさいという福音メッセージが宣言されたところ、彼に感謝が現れた。正確な福音を受けた彼は、今やアメリカとオーストラリア教会を巡礼しながら、聞いたかったメッセージを聞いてまことの自由を得たと話す。彼はオーストラリアの韓国人教会に行きながら朝の祈りも抜けたことがない。解答を与える福音は、あなたに答えとして必ず現れる。暗やみの勢力から抜け出て、光の祝福を味わうヘンリーの人生キャンプはまさにあなたのものでもある。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ